

沖縄ヘイトの考察

師岡康子は著書『ヘイトスピーチとは何か』(岩波新書)で、「ヘイトスピーチとは、広義では、人種、民族、国籍、性などの属性を有するマイノリティの集団もしくは個人に対し、その属性を理由とする差別的表現であり、その中核にある本質的な部分は、マイノリティに対する『差別、敵意又は暴力の煽動』(自由権規約 20 条)、『差別のあらゆる煽動』(人種差別撤廃条約 4 条本文)であり、表現による暴力、攻撃、迫害である」と記している。

今号の『沖縄通信』では、沖縄ヘイトについて考察する。まず、はじめに、事実経過を確認し、次に、何が問題なのか、その核心を明らかにする。そして最後に、その克服の方途を探求したい。

ここで取り上げた人物は、その敬称は省略し、当時の肩書で表記する。枚挙にいとまがないほど沖縄ヘイトが蔓延しているので、そのすべてを網羅できていないが、筆者が知り得た事例を時系列に述べる。

1 ケビン・メア米 국무省 日本部長のケース

2010年12月3日、米 국무省内の会議室でワシントン・アメリカン大学の学生14人が、沖縄訪問を前にケビン・メア日本部長から講義を受けた。 국무省側からの出席者は3人であった。学生たちの沖縄訪問は同月18日～26日に実施された。

ケビン・メアは米軍再編協議がおこなわれた2005年～06年に在日米大使館 安保部長の任にあり、2006年～09年、在沖米総領事であった。

彼は学生たちに次のような発言をおこなわれた(発言内容は出席した14人のうち4人で確認した)。

- 普天間は世界で最も危険というが、沖縄の人はそれが本当でないことを知っている。
- 日本人の本音と建前に気をつけるように。
- 日本人は合意文化をゆすりに使う。合意を追い求めるふりをしながら、できるだけ多くの金を得ようとする。
- 沖縄人は怠惰でゴーヤーも栽培できない。ごまかしとゆすりの名人だ。
- 沖縄の政治家は日本政府と(東京で)合意しても沖縄に帰ると合意していないと言う。
- 沖縄(県民)は沖縄戦を、日本政府から金をゆするために使っているようだ。
- 日本政府は沖縄に、金が欲しければ辺野古移転を受け入れろ、と迫るべきだ。

○（憲法 9 条が）もし改憲されていたら、米国の国益を増進するために、日本の土地を使うことができなくなっていた。

○ 在日米軍駐留経費負担（思いやり予算）は米国にとって有益だ。我々は日本で、すこぶる有利な条件設定（ベリー・グッド・ディール）をしている。



4 月 13 日、第 1020 回大阪行動の筆者

○（米軍の夜間訓練について）

地元の住民は反対するが、現代の戦争は夜間におこなうことが多い。夜間訓練は抑止力を維持するのに重要だ。

○ 沖縄は離婚率と出生率（特に婚外子）が最も高く、アルコール度数の高い酒を呑む文化があり、飲酒運転の比率も高い。

ケビン・メアは在沖米総領事に就任した直後の 2006 年 8 月 2 日、沖縄中部のホテルでの会食で、米軍普天間飛行場の辺野古移設を強行するのは日米関係に悪影響だとの問いに対して、「沖縄は基地を造るといって東京から金だけとって、基地を造っていない。もう食い逃げは許さない」と、日本語で少なくとも 2 回繰り返した。「一刻も早く埋め立てが進むように、辺野古に行くたびに海に石を投げ入れている」と話していたことが判明した（『沖縄タイムス』2011 年 3 月 10 日付）。

<ケビン・メアのその後>

2011 年 3 月 10 日、米務省はケビン・メア日本部長を更迭し、後任にラスト・デミング元駐日米首席公使を任命した（同年 9 月まで）。新聞報道によって事態が明らかになった、まさにその翌日の 3 月 11 日、周知の通り東日本大震災が起こった。そのためすべてのマスコミ報道は、重点を大震災の方に移し、ケビン・メアに関する情報は後景化されたが、米軍の“トモダチ作戦”の調整役に従事していた模様である。

その後、ラスト・デミングに 2013 年秋、日本政府より旭日中綬章が授与された。

2 田中聡・沖縄防衛局長のケース

2011 年 11 月 28 日の夜、那覇市の居酒屋で田中聡・沖縄防衛局長を囲む報道各社との懇談の席が設けられ、約 10 社が集まり、会は会費制で約 2 時間にわた

った。田中局長が「記者会見以外に率直な意見交換ができれば」と設定したものだ。田中局長は会の冒頭、発言を直接引用しないことを確認する意味で「これは完オフ（完全オフレコ）ですから」と述べた。

○ 辺野古新基地建設に向けた環境影響評価書（アセスメント）の提出時期を一川保夫防衛大臣が「年内に提出する」ではなく「年内に提出できる準備をしている」との表現にとどめているのは何故かと聞かれて、「これから犯す前に犯しますよと言いますか」という趣旨の発言をした。

○ 1995年の米兵によるレイプ事件で当時のリチャード・マッキー米太平洋軍司令官の「犯行に使用した車を借りるカネがあれば、女が買えた」との発言を「その通りだと思う」と肯定した。

○ 沖縄は66年前の戦争で、軍が居たのに被害を受けたとの問いに、「400年前に薩摩に侵攻された時は琉球に軍隊がいなかったから攻められた。基地のない平和な島はあり得ない。沖縄が弱いからだ」とも発言した。

同月29日付『毎日新聞』（電子版）によれば、田中聡は1996年7月から約2年間、那覇防衛施設局（当時）の施設企画課長として沖縄に赴任している。この間に、名護市で海上ヘリポートをめぐる市民投票が行われた（1997年12月21日）が、彼は市民投票に露骨に介入し、責任者として受け入れ賛成の集票活動をおこなっていた人物である。

<田中聡の釈明>

田中聡が防衛省におこなった釈明内容の要旨は次の通り（『朝日新聞』同月30日付）。

居酒屋での記者との懇談において、評価書の準備状況、提出時期などが話題になり、私から「『やる』前に『やる』とか、いつごろ『やる』とかいうことは言えない」「いきなり『やる』というのは乱暴だし、丁寧にやっていく必要がある。乱暴にすれば男女関係で言えば犯罪になりますから」といった趣旨の発言をした記憶がある。

自分としては、ここで言った「やる」とは評価書を提出することを言ったつもりであり、少なくとも、「犯す」というような言葉を使った記憶はない。

しかしながら、今にして思えば、そのように解釈されかねない状況、雰囲気だったと思う。

私としては、女性を冒涇する考えは全く持ち合わせていないが、今回の件で女性や沖縄の方を傷つけ、不愉快な思いをさせたことを誠に申し訳なく思い、お詫び申し上げたい。

<田中聡のその後>

田中聡は同月29日付で沖縄防衛局長を更迭され、12月9日に停職40日の懲戒処分を受けた。その後復権し、2012年、技術研究本部技術企画部長／2013

年、大臣官房参事官／2014年、装備施設本部副本部長（総務担当）／2015年、防衛装備庁プロジェクト管理部長／2017年、地方協力局次長／2020年、防衛研究所長

と上り詰め、2021年に防衛省を退職した。

■ 百田尚樹&木原稔など自民党タカ派国会議員のケース

2015年6月25日、自民党若手タカ派議員らによる勉強会「文化芸術懇話会」が結成され、その会に講師として招かれた百田尚樹は、「沖縄の地元紙は政府に批判的で、2紙はつぶさないといけない。あつてはいけないことだが、沖縄のどこかの島が中国に取られれば目を覚ますはずだ」と主張した。「普天間飛行場はもともと田んぼの中にあり周りは何もなかった。商売のために住民が住み始めた。（戦時中）沖縄は本当に被害者やったのか。そうじゃない」とも述べた。

この会の代表に木原稔青年局長が就任したが、出席した議員から「マスコミを懲らしめるには広告料をなくすのが一番、経団連に働きかけてほしい」、「もともと田んぼの中にあつた基地の周りに行けば商売になると、みんな何十年もかかって基地の周りに住みだした」等の発言が続いた。

これに対し翌26日、地元2紙は「政権の意に沿わない報道は許さないという“言論弾圧”そのものであり、民主主義の根幹である表現の自由、報道の自由を否定する暴論にほかならない」との共同抗議声明を発表、沖縄県議会は「反省を求める決議」を採択するなど厳しい批判が出された。

<百田尚樹の釈明>

その後、百田尚樹は「冗談として言った。公権力、圧力でつぶすとの趣旨ではない」「私と意見の違う2紙を誰も読まなくなり、つぶれてほしい」と、2紙つぶせ発言の真意と持論を説明した。

また2015年6月28日、大阪府泉大津市で開かれた講演会において、「その時は冗談口調だったが、今はもう本気でつぶれたらいいと思う」と発言している。

<木原稔のその後>

事態の沈静化を図るためか、木原稔は党から青年局長を更迭され、1年間の役職停止処分を受けた。しかしその後、「反省の情が顕著なため」として、役職停止処分は3ヶ月に軽減され、同年10月、自民党文部科学部会長に就任し、2023年9月、防衛大臣に就任し、初入閣した。

■ 大阪府警機動隊員、松井一郎・大阪府知事のケース

2016年10月18日、東村・高江の米軍ヘリパッド建設現場で大阪府警の機動隊員がフェンス越しに、建設に反対する市民（芥川賞作家の目取真俊さんと判明）に対し、「どこつかんどるんじゃボケ、土人が」と暴言を吐いた。



4月13日、第1020回大阪行動の風景

松井一郎・大阪府知事は同月19日夜、自身のツイッターに「表現が不適切だとしても、大阪府警の警官が一所懸命命令に従い職務を遂行していたのが分かりました。出張ご苦労さま」と投稿した。

■ 岩屋毅防衛大臣のケース

2019年2月26日、岩屋毅防衛大臣は記者会見で、同月

24日に実施された辺野古新基地建設の賛否を問う県民投票で、「辺野古反対」の民意が示されたことに関し、「沖縄には沖縄の民主主義があり、しかし国には国の民主主義がある」と語った。

■ ひろゆき（西村博之）のケース

○ 2022年10月3日夕方、抗議の市民が解散した後の辺野古のキャンプ・シュワブ前のテントを訪れたひろゆきは、「新基地断念まで 座り込み抗議 3011日」と記す掲示板を前に笑顔で写真を撮影し、「座り込み抗議が誰も居なかったので、0日にした方がよくない？」とツイートした。

○ 翌4日、キャンプ・シュワブ前を再び訪れ、座り込んで抗議している市民が機動隊員に排除されるのを離れた場所から見て、ひろゆきは笑いながら「あ、すごい、がんばっている」と声を上げていた。

○ 同月6日、ひろゆきは「2022年の名護市長選では、基地容認派の市長が勝っているのをご存知ないのですか？」「もう少し、勉強された方がよろしいかと思えます。それとも名護市民の民意は踏みにじっても良いのですか？」とツイートした。

○ 同月7日、座り込み日数を記録した掲示板について、「誰かが書いた汚い文字」と揶揄する。

○ 同月7日、YouTube配信で、「沖縄の人って文法通りしゃべれない」、「きれいな日本語にならない人の方が多い」と語った。

(次号につづく)